

若手職員の本音

回答数
103人

採用1～3年目の若手職員にアンケートを実施しました！
※%は「そう思う」「まあそう思う」の割合です。※R6.12に実施しました。

上司・先輩・同僚に相談しやすい職場だと思いますか？

- 職場の雰囲気がとてもよく、雑談や質問、相談がしやすい環境で、上司も常に気にかけてくれる。
- 1年目は新採OJT担当者がつき、業務外のことも相談がしやすかった。
- 積極的に発言する場を設けてもらえる。



91%

休暇を取りやすい環境だと思いますか？

- 上司や周囲の職員も比較的良好に休暇を取っているの自分も取りやすい。
- 時間休も取りやすいので、病院や手続き等で仕事を一旦抜けることができ、助かっている。
- 所属長から休みを取るよう声掛けがある。

90%

鳥取県職員になってよかったと思いますか？

- 鳥取県の情報が入ってきやすく、鳥取の魅力を感じられるようになったから。
- 周りが良いばかりで、ワークライフバランスも充実している。
- 同期に恵まれて、仕事以外も充実していると感じる。

87%

県職員になってみてイメージと違っていたことはありますか？

- お堅いと思っていたが同期、先輩、上司は気さくな人が多い。
- 想像以上の過ごしやすさ。各々働きやすい服装で勤務している。
- 古いイメージを持っていたが、デジタル化や効率化が進んでいる。
- 若手職員が多く活躍していたこと。
- 柔軟な発想が求められること。
- 想像よりもいろんな人がいて、面白い。



県職員を目指す方へのメッセージをどうぞ

- 鳥取県の情報が集まってくるため、知らなかった鳥取県の魅力に気づくことができます。県職員になって、より鳥取のことが好きになりました。
- 幅広く様々な事が経験できます。どんな仕事が入っているのか迷っている方にはおすすめの職場だと思います。
- 県外から入庁した人に対しても、周りの人はあたたかく迎えてくれます。
- コンパクトな県庁だからこそ上役との距離も近く、若手職員であっても比較的裁量が大きいと感じます。若手職員向け勉強会など、若手～中堅職員がお互いに学び合う風土もあります。

研修・育成制度

●新規採用職員研修

採用1年目には、鳥取県職員としての役割、必要となる知識やスキルを段階的に学んでいきます。

4月 基礎研修(7日間)	6月 体験研修I(1日)	10月 フォロー研修(2日間)	随時 体験研修II(2日間)
県職員として必要な基礎的な知識・能力などを習得します	県内視察、施設見学などを行います	職場での実務経験を踏まえたフォローアップを行います	生産現場、民間企業、福祉施設等で職場体験研修を行います

※2年目以降にも、段階に応じて必要な研修を数多く用意しています。
※研修内容はR7年度のもので、日程や実施方法は変更となる場合があります。

●職場でのサポート

それぞれの配属先で、新規採用職員一人一人に先輩職員が新採OJT担当者・新採サポーターの2名体制で付き、実務を通じた指導・日常生活やメンタル面のサポートを行います。もちろん職場全体でバックアップするので、安心して業務に取り組むことができます。



●専門機関等での研修

配属先や各職種に必要な業務に関する知識や能力を習得するため、庁外の専門機関や団体等が実施する研修等にも、積極的に参加することができます。

鳥取県職員として働くこと

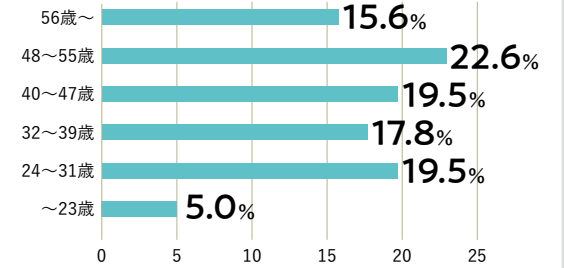
鳥取県ではたらく職員について

職員数

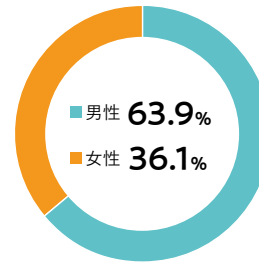
2,937人

(令和7年4月1日現在：一般行政部門の職員)

年齢別構成比 (令和7年4月1日現在：全職員)

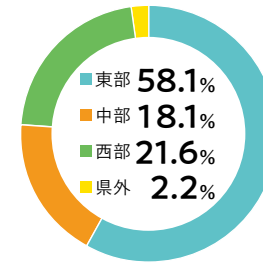


職員の男女比率



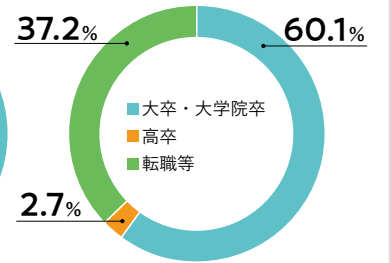
(令和7年4月1日現在：知事部局)

職員の勤務先(配属先)



(令和7年4月1日現在：知事部局)

令和7年度新規採用職員の経歴



(試験の種類とは関係ありません。)

勤務時間・休日について

勤務時間 8:30～17:15(休憩時間60分)

休日 土・日・祝日・年末年始(12/29～1/3)

休暇について

年次有給休暇
年間20日
(4月採用の場合)
その年は15日

夏季休暇(有給)
6月～10月の間で
5日間

その他の休暇制度

- 結婚休暇
- 介護休暇
- ボランティア活動休暇
- 生理休暇
- 病気休暇 など

1ヵ月あたりの時間外・休日勤務の状況

平均 13.2 時間/月

年次有給休暇の取得状況

平均 13.7 日/年

(令和6年：知事部局)